平成２７年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

<table>
<tr><td>指定期間</td><td>ふりがな</td><td colspan="4">いわてけんりつもりおかだいいち</td><td rowspan="2">②所在都道府県</td><td rowspan="2">岩手県</td></tr>
<tr><td>27～31</td><td>①学校名</td><td colspan="4">岩手県立盛岡第一高等学校</td></tr>
<tr><td rowspan="2">③対象学科名</td><td colspan="5">④対象とする生徒数</td><td colspan="2">⑤学校全体の規模</td></tr>
<tr><td>１年</td><td>２年</td><td>３年</td><td>４年</td><td>計</td><td colspan="2" rowspan="3">1 年…普通・理数科 7
2 年…普通科(文系)3,(理系)3･理数科 1
3 年…普通科(文系)3,(理系)3･理数科 1</td></tr>
<tr><td>普通科</td><td>284</td><td>240</td><td>248</td><td></td><td>772</td></tr>
<tr><td>理数科</td><td>-</td><td>0</td><td>0</td><td></td><td>0</td></tr>
<tr><td>⑥研究開発構想名</td><td colspan="7">イーハトーブ世界（万人の幸福を希求するグローバル社会）の開拓者の育成</td></tr>
<tr><td>⑦研究開発の概要</td><td colspan="7">地域のグローバル課題を題材とした課題研究を、総合学習を活用し、学年の進行に応じて段階的に構成することにより、グローバル・リーダーが備えるべき素養を涵養するプログラムを開発する。それと並行して、既存の科目の発展的再構成を中心に、教育活動全体を通じてこれを下支えすることで得られる成果の最大化をはかる。</td></tr>
</table>

⑧研究開発の内容等

⑧-1 全体

(1) 目的・目標

＜目的＞

グローバル課題を発見し、原因を探り、解決法を探究・議論し、その成果を本国のみならず、世界のパイロットモデルとして発信する一連の取組みを通して、21 世紀の理想的なグローバル社会を開拓し得る人材の育成を目指す。

＜目標＞

・グローバル課題の解決法を探究し、その成果を世界へ向けて発信するとともに主体的に課題解決へ向けた実践を行う姿勢を養う。

・世界の諸国・諸地域の実態と抱える課題への関心を高めるとともに、論理的思考力、課題解決能力、積極性、行動力を養い、主体的な学びを醸成する。

・他者との相互理解・協業に必要な傾聴力、共感力、質問力、説得力を育成し、自分の考えを分かりやすくかつ説得的に伝える力を身に付ける。

・上記３つの目標を十全に達成するに足る実践的英語力を習得する。

(2) 現状の分析と研究開発の仮説

本校は平成 26 年に創立 134 周年を迎えた全日制普通高校で理数科を併設する。ほぼ全員が大学に進学しており、その多くはスーパーグローバル大学に進学している。開校以来国内外で活躍する人材を数多く輩出してきた。文武両道を校是とし、部活動においても全国大会での活躍が目立つ。但し日々の授業や部活動に追われ、グローバルな視点から自らが生きる社会を学ぶための機会が十分に得られているとは言い難い。一方で約半数の生徒は留学や国際的業務への就職を希望するという現状にあり、こうしたニーズに応えるためにも、地域社会はもとより国内外でグローバル世界を牽引するグローバル・リーダーに必要な資質を涵養し得る教育プログラム開発は急務となる。

本研究開発は、２段階に大別される課題研究を学年の進行に応じて発展的に構成するとともに、教育活動全体を通してそれを支える方途を開発するという３つの研究開発単位を有機的に関連付けていくことにより、アウトカムを効果的かつ効率的に最大化し得るという仮説に基づいて構想・構成されている。

(3) 成果の普及

ホームページ上で取組内容や研究成果を報告するほか、生徒の課題研究は、課題研究発表会、県内教育団体・国際交流協会主催のセミナー等で成果を発表し普及を図る。

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td>⑧-2 課題研究</td><td>

(1) 課題研究内容

１学年では「岩手発 グローバル課題の探究」をテーマに、２年次にSG課題研究Ⅱで取組む６つのカテゴリー(下掲)に関連した岩手県が抱えるグローバル課題の実態把握とその解決に向けた方向性についてフィールドワークを行い、探究的学習の素地を養うとともに基礎的な手段や手法を学ぶ（SG課題研究Ⅰ）。２学年では岩手県が抱える様々なグローバル課題について解決策を追究するとともに、具体的な行動へと移す能力を高めるため、喫緊かつ普遍性の高い６つのカテゴリー（「２１世紀型地方都市の探究」「ローカルな魅力を活かしたグローバル観光モデルの探究」「"Made in Iwate"ブランドの確立へ向けた探究」「グローバルスタンダード教育モデルの探究」「グローバルな知の拠点の創造へ向けた探究」「世界を支える地域医療の探究」）を設定し、外部機関と一層密に連携し探究的学習に取り組む（SG課題研究Ⅱ）。３学年では一連の取組の集大成として、研究成果について英語を活用し広範に発信する方法を探究する（SG課題研究Ⅲ）。

(2) 実施方法・検証評価

「SG課題研究Ⅰ」では岩手県内および西日本(研修旅行を活用)で行うフィールドワークを中心としながら、その前後に外部講師による講義、プレゼンテーション、ディスカッションを配置し、特に課題発見能力、コミュニケーション能力の育成に注力した探究的学習を構成する。「SG課題研究Ⅱ」は６分野のテーマでグループ毎に文理両面からの探究を行い、外部機関との密な連携の下、論文作成、研究発表を行う。その過程において特に意欲のある生徒を対象に世界各地で実地調査や発表を行い、その成果は続く「SG課題研究Ⅲ」において、外国人教員の指導を受けつつ日本語と英語の報告書にまとめ発表する。なお平成27年度の海外研修はアメリカのボストンで実施予定である。

一連の取組の成否は、発表会での相互評価や岩手大学等の第三者による客観的評価及び事業実施前と実施後の生徒、教員等の意識調査によりその変容を比較し検証する。

(3) 必要となる教育課程の特例等　　特になし

</td></tr>
<tr><td>⑧-3 上記以外</td><td>

(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価

ア 国際レベルで情報の発信と受容ができる実践的英語力を向上させる指導法の研究

１学年を対象とした「コミュニケーション英語Ⅰ」について、特に《四領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導を行う》ことに重点を置き、実践的英語力育成のための指導法（外国人講師との協同等）と教材を開発する。一連の取組の成果はGTEC（平成27年度以降毎年実施予定）等の外部試験を活用しながら検証する。

イ 社会課題に対する深い関心と高度な専門性を育成する指導法の研究

１学年を対象とした「現代社会」の授業を通して社会の諸課題に対する関心を喚起し、望ましい解決の在り方について主体的に探究・考察する力を養成するための指導法の研究と教材の開発を行う。取組の成否はルーブリック等で検証する。

(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等　　なし

(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法

ア 海外派遣研修「白堊の翼」(昭和55年から実施している海外研修、1･2年生対象)

海外の大学、国際機関、研究施設等の見学やフィールドワーク、同世代の生徒とディスカッションを主な内容とした研修を学校独自予算で実施する。

イ グローバル研究会（課題研究をより深化させるための課外活動の立ち上げ）

ウ 外国人高校生の短期招致(昭和57年からの実施、これまで232名を受入れ)

エ SGH、SSH実践校との合同発表会

オ 英語部の活動充実

カ 外国大学進学研修会（教員による外国大学進学推進のための検討会の立ち上げ）

</td></tr>
<tr><td colspan="2">⑨その他特記事項</td><td>特になし</td></tr>
</table>

ふりがな	いわてけんりつもりおかだいいちこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	岩手県立盛岡第一高等学校		

平成２７年度スーパーグローバルハイスクール　目標設定シート

１．本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
	SGH対象生徒:								152人
	SGH対象生徒以外:	80人	82人						8人
	目標設定の考え方: SGH対象生徒は2割、SGH対象生徒以外は1割が主体的に取り込むことを目標として設定する								
b	自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
	SGH対象生徒:								30人
	SGH対象生徒以外:	20人	22人						5人
	目標設定の考え方:長期留学5名、本校の海外研修20名、公的機関の募集する短期海外研修5名、NPO・民間主催の海外研修プログラム5名参加を目標値として設定する								
c	将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
	SGH対象生徒:								70%
	SGH対象生徒以外:	50%	52%						60%
	目標設定の考え方:講演会や探究活動がキャリア的な動機づけにもつながることが期待されることから、SGH対象生徒の7割、対象外生徒の6割を目標値として設定する								
d	公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
	SGH対象生徒:								15人
	SGH対象生徒以外:	12人	13人						5人
	目標設定の考え方: 特にSGH対象生徒について国内外の大会への参加を奨励し、県内レベル15人、全国レベル4人、国際レベル1人の合計20人の入賞者を目標値として設定する								
e	卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
	SGH対象生徒:								70%
	SGH対象生徒以外:	60%	61%						65%
	目標設定の考え方:1学年全員を対象としたグローバルコミュニケーション英語Ⅰを中核としたプログラム開発により、SGH対象生徒70%、対象外生徒65%を目標値として設定する								
f	課題解決のための探究的な学習活動を好む生徒の割合								
	SGH対象生徒:								70%
	SGH対象生徒以外:	52%	53%						55%
	目標設定の考え方:課題研究を通して進んで探究しようとする態度が醸成されることが期待できるので、SGH対象生徒は、70%を目標値として設定する								

1’指定4年目以降に検証する成果目標

		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
a	国際化に重点を置く大学 へ進学する生徒の割合								
	SGH対象生徒:								50%
	SGH対象生徒以外:	38%	30%						45%
	目標設定の考え方:北大、東北大、筑波大、東京大、京都大、早稲田大、慶応大等のスーパーグローバル大学に進学する生徒の増加を目指す								
b	海外大学へ進学する生徒の人数								
	SGH対象生徒:								６人
	SGH対象生徒以外:	0人	２人						１人
	目標設定の考え方:SGH構想を推進することで、海外の大学への関心が高まり、進学を希望する生徒の増加が期待されるので、各クラス1名程度の進学者を目標として設定する								
c	SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
	SGH対象生徒:								40%
	SGH対象生徒以外:	20%	21%						25%
	目標設定の考え方:グローバル課題研究Ⅱ・Ⅲは生徒の興味関心を活用したものであり、取組を通して大学教員・院生らと関わる中で、進学に対する意識が明確となることが期待されるため、対象生徒については4割を目標値として設定する。なお課題研究に取り組まない対象外の生徒についても講演会や対象生徒による発表会が動機付けの機会となることが期待される								
d	大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
	SGH対象生徒:								30人
	SGH対象生徒以外:	－	－						７人
	目標設定の考え方:SGH対象生徒は、留学１０人、海外研修２０人、SGH対象生徒以外は、留学2人、海外研修５人を目標値とする								

２．グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数	10人	10人						20人
	目標設定の考え方： １年生、2年生を対象とし、定員を上回る応募があった場合は選抜により決定する								
b	課題研究に関する国内の研修参加者数	320人	320人						560人
	目標設定の考え方： 1年生、2年生全員								
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数	0校	0校						3校
	目標設定の考え方： 目標値の内訳＝海外大学1校、高校1校、国際機関1								
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数（人数×回数）	0人	8人						32人
	目標設定の考え方： 課題研究実践への指導助言１年5人、2年（6グループ×1人×3回＋理数科3人）、3年6人								
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数（人数×回数）	0人	3人						6人
	目標設定の考え方： 課題研究実地調査（6グループ×1人×1回）								
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数	15人	29人						39人
	目標設定の考え方：目標値の内訳＝英語ディベート大会（4人）、ディベート大会(4人）、模擬国連（8人）、科学甲子園（8人）、その他全国大会（15人）								
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数（留学生も含む。）	9人	3人						14人
	目標設定の考え方： 目標値の内訳＝帰国・外国人生徒の受入れ2人、留学生2人、短期受入10人								
h	先進校としての研究発表回数	2回	2回						5回
	目標設定の考え方：目標値の内訳＝課題研究発表会（校内2回、全国1回）、県内教育関係の研究会(1回）、その他の団体のセミナー(1回）								
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている　△一部整備されている　×整備されていない	×	×						○
	目標設定の考え方： 26年度から整備、27年度整備完了。28年度以降はユーザビリティにも考慮して随時更新する								
j	国際的素養を高めるための講演会の実施回数	2回	2回						5回
	目標設定の考え方：目標値の内訳＝1，2学年単位で実施するもの各2回、3年で1回								

＜調査の概要について＞

1．生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数（人）	884	855					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							